

令和4年7月7日

第1回学校運営協議会 議事録

書記 稲葉 啓太

- 1 日時 令和4年12月12日(木) 14時30分～15時30分
- 2 場所 本校A棟3階 大会議室
- 3 出席者 鎌倉高等学校 学校運営協議会委員(敬称略)
- | | |
|--------|-------------------------|
| 齋藤 貴 | 神奈川工科大学副学長 |
| 白井 誠一 | 七里ガ浜二丁目自治会長 |
| 永野 征男 | 日本大学名誉教授、鎌倉市まちづくり審議会委員 |
| 大村 智香子 | 本校PTA会長 |
| 渡邊 晃 | 本校同窓会長 |
| 板倉 浩子 | 本校元PTA会長 |
| 田邊 克彦 | 元昭和音楽大学教授、元県立総合教育センター所長 |
| 田中 顯治 | 鎌倉高等学校長 |

鎌倉高等学校職員

築瀬 公成	副校長	
佐藤 竜太	教頭	
椿 みどり	事務長	
福井 利廣	総括教諭	教務グループリーダー
石川 比呂子	総括教諭	キャリア支援グループリーダー
鈴木 康晴	総括教諭	管理グループリーダー
永山 悦子	総括教諭	生活指導グループリーダー
千葉 大介	総括教諭	生徒会グループリーダー
佐藤 靖彦	総括教諭	学習企画グループリーダー
稲葉 啓太	教諭	学習企画グループ

欠席者 鈴木 徹 鎌倉市立腰越中学校長
中林 奈美子 本校元PTA会長

4 協議内容

(1) 校長挨拶

田中校長

- ・今年、第一回の協議会。本校に着任して2年目となった。鎌倉高校は、学力向上進学重点校エントリー校および理数教育推進校である。現在はSSH指定校を目指して学校教育に取り組んでいる。日頃より学校運営協議会の皆様には、学校の基本方針を、承認いただいたり、ご意見を述べていただいたりしている。
- ・教育委員会から、第三者評価を受けてくださいという指示をいただいた。外部の専門家の方から、専門的視点から学校運営評議会の評価をいただく。今まで以上に学校運営評議会の活性化を図っていく。
- ・SSHの指定を受けることを目指すのであれば、今まで以上に、授業改善、生徒指導改善、地域交流の活性化を、学校運営協議会のPDCAサイクルを回しながら図っていかなければならない。校長としても、学校運営の改善を図っていく所存である。

(2) 役員自己紹介

(3) 会長選出

渡邊委員が会長選出、議事進行

(4) 部会グループ報告

佐藤総括教諭

- ・令和4年学校評価報告書、令和3年学校評価報告書に記載のような観点で学校運営をしていく。
- ・学校評価部会キャリア部会は今年度から再開予定。12月の評議会の前で各部会を行いたい。内容は未定。詳細は後日。

築瀬副校長

- ・キャリア部会の委員については、10名全員は難しいので、数名に依頼予定。

① 教務グループ 福井総括教諭

近況報告

- ・今年度は現在までにコロナによる臨時休校はない。今年度、学級閉鎖は1件。7月に入って感染者が増え、予断を許さない状況。授業の進行を考えると、9月に分散登校などにならないか心配。オンラインもできるが、学校での対面授業を行いたい。

教育課程について

- ・今年度から新教育課程となる。平成30年度に決まった新学習指導要領が今年からスタート。科目の名称など変更あり。再来年には全学年が新学習指導要領になる。今は過渡期にあたる。
- ・評価方法も、旧カリキュラムから変更した。5段階評価から新評価基準として3観点3段階で評価していく。現在、1年と2、3年では評価の方法が異なる。ミスに気を付けて成績付けなどを行っていく。

② キャリア支援 石川総括教諭

- ・合格者報告資料については、経年の変化を見せたいと思い、3か年の資料を作成。生徒に配布する資料も3か年のデータを載せた。今春は東京大学合格者や難関大の合格者が出た。生徒が頑張った成果を示せたと思う。

・キャリア指導では、参議院選挙が実施する年には、シチズンシップ教育を行っている。今年度もインターンシップは継続していく予定である。

③ 管理グループ 鈴木総括教諭

- ・今年度は、コロナ下で制限はあるものの、避難訓練や入学式、卒業式を実施した。
- ・広報活動を今年度から学習企画グループから管理グループへ業務移管した。まずは公私合同説明会に取り組む。

④ 生活指導グループ 永山総括教諭

生活指導について

- ・人権教育を尊重。コア会議は月に2回実施している。定例化により情報共有を円滑に進めている。
- ・女子のスラックスを導入してから2年目になる。2年生で1名、1年生で1名がスラックスを着用している。スラックスはまだ広く行き渡ってはいない。教員から働きかけをしているわけではないが、女子用のスラックス販売店は増えている。生徒の選択肢は十分にある状況であると考えている。
- ・鎌倉高校の生徒指導では、江ノ電の乗車マナーや通学路での苦情への対応が多いが、その都度指導を行っている。最近観光客が増えているので、苦情がうもれているだけの可能性もあり、気を引き締めていく。
- ・生徒相談が増えている。SCの9月の予約はもう一杯である。予約方法を変えることを検討する必要があると考えている。
- ・学校生活アンケートを実施中である。アンケートの中から気になる生徒を拾い上げて面談予定。
- ・地域貢献活動は今年11月に実施できる可能性がある。実施できなかった場合は、ボランティア数名による海岸清掃を行う予定である。
- ・今年度、生徒手帳をデジタル化した。新入生の保護者には生徒手帳の内容を入学の手引に記載して配っている。デジタル化して困ったというご意見は現時点ではない。
- ・奨学金関係は100名近く説明会に来た。奨学金を利用したいという生徒は近年増えている。

⑤ 生徒会グループ 千葉総括教諭

- ・前期の学校行事は、コロナ対策および熱中症対策を行いながら実施することができた。規模を縮小するなど葛藤もあったが、来年度はコロナが感染拡大する前の形で実施したいと考えている。来週にはスポーツ大会がある。熱中症対策および感染症対策をしたうえで実施する。
- ・昨年度に指摘があった地域との鎌高祭での連携を今年度も継続させることができた。さらに今年度は鎌倉養護学校分教室の先生方のご協力もいただき、分教室の活動を発表できた。
- ・10月の合唱コンクールは、鎌倉分教室と共同実施予定。コロナの感染拡大の状況次第ではあるが、9月および3月に球技大会を実施する予定である。

⑥ 学習企画グループ 佐藤総括教諭

- ・平成31年(令和元年)度から本校は理数教育指定校になった。現在はSSHの申請を行っている。昨年度は残念ながら認定されなかった。今年度も理数教育を継続する。
- ・今年度は1学年では、理数探究基礎を新たに実施。週1コマ実施している。批判的思考やデータ分析を実施。1単位なので、隔週だがこれまでに5回の授業が終わった。生徒はよく取り組んでいる。後期はさらに批判的思考力・論理的思考力を育てていきたい。
- ・鎌倉高校は学力進学重点校エントリー校でもある。今年度は公開授業を実施する予定。外部の先生方から、様々なご意見をいただきたいと考えている。授業テーマは、「探究的な学びを取り入れた授業改善」。「クリティカルシンキングを基礎とした論理的思考力の育成」である。公開研究授業は10月6日。この前後には授業公開期間

を設定する。運営協議会の皆様にもぜひお越しいただきたい。その場合は事前に連絡していただくと助かる。

・SSHについては、これから毎年申請していく予定である。そのために、教員の授業力向上や科学技術人材の育成をどのように行うかを検討していく。

(5) 意見聴収

田邊委員

・授業参観について

鎌倉高校の授業参観にはじめて参加した。生徒たちは前向きだった。先生方の努力も感じた。鎌倉高校の生徒たちは、教えてもらったことを十分に吸収できる姿勢がある。その意味では、これから鎌倉高校の生徒たちがどのように伸びていくのかは、授業をしている先生方の力に掛かっている。だが、まだそれぞれの先生に課題があると感じた。今後、またじっくり見学させていただく。

・学校評価報告書について

令和3年度の学校評価報告書について注文がある。「～したい」、「～するよう促す」という言葉があるが、これらは評価としての言葉ではない。明確に具体的に書くことが大事である。個人の意見なのか学校の意見なのかかわからない。具体的には、「～という課題があった」、「来年度はこのように具体的に改善する」を書いてほしい。

PDCAサイクルを明確に打ち出した報告書にしてほしい。令和4年度と3年度を比較すると、令和4年度には具体的な方針を書いているのが評価できる。数値を書いていることも評価できる。今後も継続して具体的な記述や数値目標を、記述することをお願いしたい。PDCAはそれで回っていくと考える。

SSHに向けての授業改善の具体策がわからない。職員全員が同じ立場に立たないと、授業改善は進まない。職員が一致した視点をもつためには、話し合いや意見の整理をするべきである。つまり、議論すべきである。

SSHという制度が始まってから相当年数が経っている。実際に学校で導入すると、職員が「やりたくない」、「県からおしつけられた」という。それでは本来の目的とは離れてしまう。取り組むのであれば、各教科が協力しないと達成できない。

SSHを推進する組織を明確化するべきではないか。組織で動き、常時、SSHに向けて取り組むべきではないのか。

新指導要領ではICTを導入しなければならない。鎌倉高校でも1年生全員に端末を買わせている。これは過去に例がないことである。保護者からすれば費用対効果を求めてくるので、これに応えるべきである。これはこれから全職員がこの認識をもってしっかり取り組むべき大きな課題になってくる。

鎌倉高校の生徒たちには、授業で教員がチャレンジしたことを、受け止められる素質がある。そこに注力すれば、一層効果が出てくる。全職員が一致団結して取り組めば、より鎌倉高校はよくなっていくと考える。

齋藤委員

・学校評価報告書について

学校評価報告書の中の「取り組みの内容」で、PDCAサイクルでいえば、1年間の目標がP、運用がD、評価がC、というふうになると思う。評価の観点は、何回できたか、などという内容で評価が入っているが、それが目的になってしまうような気がする。つまり、Cまではできているが、Aができていない。改善ができていない。「研究協議を2回実施できたか」という評価があると、研究協議をすることが目的になってしまう。この文章ではもったいない。これではCで終わってしまう。「研究協議の反省を生かしてこういうふうに変更できた」までであると、Aまでいけると思う。

評価の観点は、教員目線で書いている。この結果、生徒の身についた力を「見える化」してもらえると、PDCA

の観点からみて順当な書き方になると考える。生徒目線で書くと良いと思う。今はどの大学もこのような書き方が進められている。

田邊委員

・生徒指導について

具体的にはどの程度生徒指導が必要な生徒がいるのか。ケアはどうしているのか。

→鎌倉高校では不登校の生徒に対する生徒指導が多いので、ケース会議にまでいたらない場合が多い。情報共有はしている。1学年2, 3人は不登校の生徒が出てしまっている。注意を要する子については、情報共有会はしている。(永山総括教諭)

田邊委員

・去年の指摘にもあるが、不登校の生徒向けに動画配信はしているか。

→難しい状況ではあるが、引き続き検討していく。(永山総括教諭)

田邊委員

・アドミッションポリシーに関しては、令和5年から運用と書いてあるが、変更されるのか？

→来年度の入試から運用されるという意味であり、基本的には変わらない。(築瀬副校長)

→もう少し具体的に書いてほしいと教育委員会に言われたので、スクールポリシーは変えなくてはならない。(田中校長)

(6) その他意見

板倉委員

塾のPR動画の話だが、今年度東大に合格した鎌倉高校の男子とバトミントン部の女子が、動画の中で鎌倉高校の話をしていた。きっと鎌倉高校が楽しかったのだろう。

面白かったのは、生徒たちもちゃんと行事の名前をわかっていない。鎌スポやカキスポなど。また、バトミントン部の女子は、学校の進路説明会の中で朝の江ノ電の時間を大事にしていた先輩の例を聞いて、真似したことが功を奏し、慶応に受かったと話していた。部活も頑張っていて自信がついたと言っていた。見ていて私も気持ちよく感じた。先生方もご覧になってはどうか。

以上